

# 秋田県立小泉瀉公園に生息するアリ類

生物部門 藤中 由美

## 研究背景と研究目的

秋田県におけるアリの分布は寺山・木原 (1994)、田中・田中 (1997)、田中・高橋 (1998) らによって報告されてきたが、その後調査研究は進まず、日本産アリ類全種図鑑(学習研究社)や日本産アリ類データベース(JADG)に示された各都道府県分布においても、秋田県は多くの種で「生息記録なし」となっている。佐藤・橋間 (2018)、久末 (2019) によって、20 年ぶりに秋田県で生息が確認されたアリが報告され、それらを合わせて 52 種となった。

本研究は秋田県のアリ相の解明を目的としている。その第一段階として県立小泉瀉公園を選定し生息調査を行った。

## 調査地の環境

県立小泉瀉公園は秋田市の北方 12 km、JR 追分駅から東に約 1 km に位置し、男瀉と女瀉を中心に周辺の丘陵地を組み合わせた、面積約 63.7 ha の公園である。落葉広葉樹としては主にハンノキ、コナラ、ミズナラ、カシワ、カスミザクラ、ウワミズザクラがみられ、丘陵地ではアカマツ、クロマツ、スギなどの常緑針葉樹とササ類が発達している。コロニー採集および土壌採集は秋田県立小泉瀉公園内の 22 地点で行い、その他任意採集を行った。

## 採集方法

ピンセットと吸虫管による見つけ採りの他、土壌篩い及びツルグレン法により採集した。なお、ツルグレン装置は自作の簡易ツルグレン装置を使用した。

## 調査結果

令和元年 5 月 20 日か 11 月 15 日までの半年間に 20 日の採集で得た 604 個体について、日本産アリ類図鑑 (2014)、日本産アリ類画像データベース (JADG)、日本産アリ類全種図鑑 (2003)、アリの生態と分類 (2010) を参照し、すべて実体顕微鏡で同定を行った。その結果、秋田県初記録と思われる *Myrmecina flava* Terayama, 1985 (キイロカドフシアリ) を含む、5 亜科 9 属 29 種が得られた。

## 考察

本県初記録のキイロカドフシアリは林床性の土中営巣種で、ササラダニ類を食餌している。稀少種とされ、これまで東北での生息記録は宮城県のみであったが、今回の調査で秋田県が北限となる。採集した 29 種のうち 16 種がキイロカドフシアリのような土中営巣種であった。ツルグレン法は単位時間あたりに多くのサンプル数を得るには非効率的だが、目視で見逃す 1 mm 程の微小種の採集には欠かせない方法である。ツルグレン法を行うにあたり、安全面を考慮しつつ、効果的に採集できる方法についてはさらに検討を要する。

今後、他に比較できる調査地データを蓄積し、秋田のアリ相が解明されていくことで、アリ群集の種組成から環境評価へアプローチすることも可能と思われる。秋田県の環境特徴と、種による生態の違いを照らし合わせながら採集時期や方法を検討し、秋田県のアリ相の解明を進めていきたい。